

令和7年度
普及活動実績集

令和8年3月

長野県北信農業農村支援センター

目 次

第1 普及活動の成果

1 重点活動課題

緑肥等を活用したグリーンな栽培体系による野菜の生産振興	1
-----------------------------	---

2 普及活動課題

(1) 人材確保と皆が憧れる経営体の育成	
ア 中核的経営体の育成	3
イ 農業道場等による新規就農者の確保と担い手の育成	6
ウ 女性農業者の育成と地域リーダーの育成	14
エ 中核的経営体の経営発展	18
オ 多様な労力の安定的確保	20
(2) 持続的な農業の取組とデジタル技術等の活用	
ア G A P手法による安全・安心への取組の強化	21
イ 環境にやさしい農業など持続可能な取組の推進	22
ウ 農業のD X化の推進	23
エ 農作業安全の推進	24
(3) 実需者ニーズに対応した北信農畜産物の生産強化	
ア 良食味米や業務用米・酒米など需要に応じた米生産の推進	25
イ 高品質で収益性が高い果樹経営の推進	26
ウ アスパラガス産地の再構築と果菜類の生産振興	27
エ シャクヤク産地の維持・強化と露地花き品目の生産振興	30
オ 畜産物地域ブランドの向上	31
(4) 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり	
ア 農地の利用集積による規模拡大の促進	32
イ 野生鳥獣対策の推進	33
ウ 農業資産・農村資源の活用とP R	34
(5) 食の地産地消の推進と次代への伝承	
ア 農畜産物の魅力を活かした、地産地消・食育の促進	35
イ マーケティング力の強化による付加価値の向上	36

第2 調査研究活動の成果

1 小麦栽培における緑肥作物の立枯れ性病害抑制効果の検証――	38
2 ぶどう「クイーンルージュ®」の摘粒省力化の検討――	40
3 ジュース用トマトの一举収穫の事例調査と動画作成	42
4 白ネギのハゼリソウを活用した環境にやさしい農業の実証	44
5 アスターの秋出荷に向けた各種L E D電球の効果確認――	46
6 短梢栽培の「シャインマスカット」における雪害により損傷した樹体の生育調査	48

第3 参考資料

1 気象グラフ	50
2 気象状況と災害	51
3 農作物の生育概況と作柄	52
4 支援センターが選ぶ今年度の主な出来事	56
5 管内統計資料	58
6 職員体制と業務分担	60

【重点活動課題】

緑肥等を活用したグリーンな栽培体系による野菜の生産振興



〈マルチ麦活用による除草剤の軽減〉



〈一挙収穫による作業効率化〉



〈一挙収穫の現地検討会〉



〈ハゼリソウ緑肥〉

人材確保と皆が憧れる経営体の育成



〈農業経営者サポート事業専門家派遣〉



〈農業経営者協会活動

社会福祉協議会に農産物提供〉

北信州農業道場の開講



〈もも・ぶどうコース〉



〈野菜・花きコース〉



〈選択講座 農業機械〉



〈選択講座 水稻〉



〈選択講座 きのこ〉



〈北信州農業道場 交流会〉

青年農業クラブの活動



〈関東ブロック 意見発表〉



〈関東ブロック 意見発表〉



〈ぼぷり 岡山県視察研修〉



〈飯水青年クラブ ファーマーズマルシェ〉

女性農業者の活動



〈北信農業女性団体
豊丘村視察研修〉



〈マイスター下水内支部
牛乳・乳製品料理講習会〉

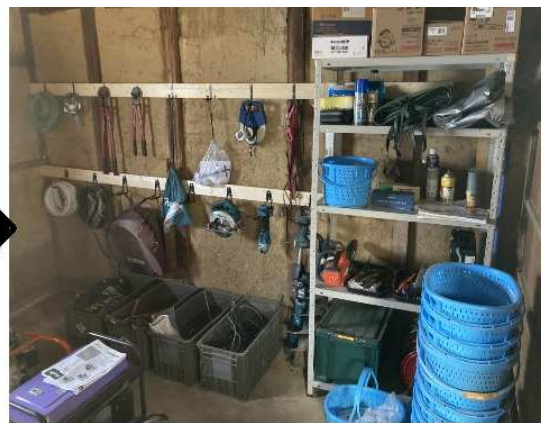


〈農村女性ネットワークたかやしろ〉
さつまいも料理講習会〉



〈北信州農村女性のつどい〉

中核的経営体の経営発展・多様な労力の安定低確保



〈カイゼン活動前→後〉

持続可能な農業の取組とデジタル技術等の活用



〈農作業安全〉



〈スマート農業機器実演会〉

実需者ニーズに対応した北信農畜産物の生産強化



〈水稻種子生産組合指導会〉



〈ソリダゴ現地検討会〉



〈クイーンルージュ®収穫期調査〉



〈きゅうり簡易雨よけ栽培試験ほ〉

農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり



〈鳥獣害対策研修会〉



〈地域計画ワークショップ〉

食の地産地消の推進と次代への伝承



〈ししこしょう一味唐辛子〉



〈販路開拓研修会〉

電 害



〈雹害ぶどうの新梢折れ〉



〈雹害甚大ぶどう〉

発 刊 に 当 た っ て

1 北信地域の農業

北信地域は、長野県の最北端に位置し、2市1町3村で構成されており、多くの市町村が豪雪地域に指定されています。

この地域の農業は、厳しい自然環境のなかで、農業者と関係者の創意工夫により、地域の特徴を活かした先取的な農業が展開されており、水稻、果樹、きのこ類等は、長野県に留まらず全国をリードする産地となっています。

また、全国屈指のスキー場や豊富な湯量の温泉を始めとした観光資源に加え、北陸新幹線などの高速交通網を活かして、観光と連携した農業振興にも取り組んでいます。

本年度の農業生産を振り返りますと、春の凍霜害は軽微であったものの、5月21日に中野市から山ノ内町にかけて強風を伴う降雹により4億円余の被害が発生しました。このため、発生翌日からJAの営農技術員と現地調査を実施し、今後の生育管理などについて指導してきました。また、7月以降は高温と少雨に推移し、果実や野菜などで小玉となり、昨年より収穫量が減収となりました。毎年、平年と大きく異なる気温と降水量の状況で、改めて早急に温暖化に対応した技術導入の必要性を感じました。

そのほか、4月に飯山市と木島平村で農作業中にクマに襲われるという受傷事案が発生し、以降も里でクマが目撃され、農作業中におけるクマを寄せつけない対策も求められました。

また、農業従事者の高齢化と減少や、物価高騰による燃油・肥料・飼料など農業資材の高騰など、農業を取り巻く環境は一段と厳しくなっています。

このような中、農業農村支援センターとしては、地域振興局各課と連携し、地域農業が抱える課題に迅速かつ的確に取り組んでまいりました。

2 令和7年度の取組

第4期長野県食と農業農村振興計画と普及活動基本計画に沿って、本年度も「未来につなげ！人と地域が織りなす北信州の食と農」を基本目標として5つの重点推進方策を設定し、農業者や関係機関等と連携・役割分担しながら活動を展開してきました。

特に重要かつ緊急的な課題を重点活動課題として位置づけ、所内プロジェクトチームにより戦略的に課題解決に取り組みました。

(1) 重点活動課題

課題名：緑肥等を活用したグリーンな栽培体系による野菜の生産振興

「みどりの食料システム戦略」に基づき、管内での持続的な野菜生産の取組を拡大させるため、緑肥を活用した減化学肥料やカバークロップによる減化学合成農薬など環境にやさしい農業の推進に取り組みました。

(2) 一般活動

各作目の生産振興や、市町村の地域振興に係る課題などについて、基本計画の5つの重点推進方策を柱に一般活動課題として普及活動を展開しました。

本年度も、関係機関団体が連携して運営する「北信州農業道場」をベースに、経営感覚に優れた農業者の育成に向けた農業簿記講座や、新規栽培者の技術習得に向けた各品目講座を実施し、地域農業をけん引するリーダー農業者と新規就農者の確保育成に努めました。

また、女性農業者のさらなる活躍推進に向けて、農村女性団体の活動支援にも取り組みました。

この他、地域課題に対応する調査研究7課題や現地実証は・試験ほ等については計画どおりに取り組むことができました。

3 今後に向けて

燃油・資材・飼肥料の高止まり、地球温暖化の進行、人口減少問題など地域農業に及ぼす影響が大きくなっており、特に、地球温暖化に起因する異常気象や気象災害は、毎年、農業現場に新たな課題を生じさせ、これまで積み重ねた技術のほか、新たな視点や発想での普及活動の展開が求められています。

ここに令和7年度の普及活動を振り返り、その成果を「普及活動実績集」として取りまとめました。

御一読いただき、農業農村支援センター及び普及活動への御理解を深めていただければ幸いです。

結びに、本年度の普及活動に御支援・御協力をいただいた関係機関・団体、農業者の皆様へ深く感謝申し上げ、発刊に当たってのあいさつとさせていただきます。

令和8年3月

長野県北信農業農村支援センター
所長 高橋 敬三